

近大スポーツ

今年初の公式戦



キンスポ

増刊号 発行 近畿大学体育会近大スポーツ編集部
2018年5月1日(火曜日) 〒517-8505 京大坂市宝持3丁目11-35
編集長 佐野益花

榎波 叩き込み 元林

個人初タイトル 優勝元林



第35回全日本大学選抜宇和島大会
近大の「闘牛」が大暴れだ！
4月29日、愛媛県宇和島市で今年初の公式戦が行われた。
団体戦では惜しくも団体3位とはならなかったが、敢闘賞を受賞。個人戦では地元津島高校出身の山口怜央(経営2)がベスト8入りし、主将・元林健治(経営4)が個人初タイトルを手にした。「西の雄」とも呼ばれる近大相撲部の主将は「全国の雄」としてここに君臨した。

優勝カップを
持って微笑む元林
「切り込み写真」得意
の押しで相手を翻弄
する元林を(撮影・
久保遥菜)



「お客さんの声援で
勝たなあかん
っていう気持ちに
なりましたね」

◆元林勝ち上がりトーナメント表◆

	対戦相手	決まり手
2回戦	日下(東農大)	寄り切り
3回戦	山中(九情大)	寄り切り
4回戦	西(日体大)	寄り切り
準々決勝	富永(東農大)	突き出し
準決勝	デルゲルパル(日体大)	寄り切り
決勝	榎波(日本大)	叩き込み

堂々の個人優勝
優勝を果たした直後でも主将・元林は落ち着いていて、榎波(日大)を叩き込みで決めた瞬間、感情は表に出すことなくグッと喜びを噛みしめた。
「勝たなあかん」。観客の歓声が響き渡る個人決勝戦の土俵で元林は強く感じた。合図と同時に榎波(日本大)に力強く立ち向かっていった。元林の得意な押し相撲で相手を押し、最後は叩き込みでの勝利。堂々の優勝を果たした元林であるが
「勝ったけどどうしても胸が出て相撲が立ってしまっているので、そこを宇佐では修正していきたい」と決して満足せず、視線は次大会へと向いていた。

相手への気遣い
昨年の宇和島大会ではけがで出場できなかった元林。今年は主将として個人優勝をもぎ取った。優勝の渦中には主将として、最上級生として、心境の変化があった。
それは「相手への気遣い」。元林は対戦相手が土俵内で倒しても、そっと体を起こす。自分が相手を土俵外へ押し出したとしてもそのままにせず、必ず手を差し上げる。昨年からのこの姿は見られたが、今年に入ってから一層その気持ちは増していた。
「今年から最上級生として相手への気遣いが大切だ」と思いました。昨年のインカレ準優勝から大躍進。相手への配慮も忘れない主将・元林の姿は頼もしい限りだ。

【久保遥菜】